

皆さんお元気ですか

2017年6月の出来事を綴っています。ご覧くださいませ。



6月1日、昨日、米国ユタ州のリノ市から帰ってきた。そして、今朝7時半からの朝稽古に行った。この時間帯マナグア市は朝のラッシュアワーだ。どの車もバイクも我先と、少しでも前に隙間があれば横入りし先に行く。バイクは赤信号でも止まらず、前に車が無ければそのまま行ってしまふ。こちらでは、道路を横断するには必死の覚悟がいる。前に人が横断していようと車は絶対に徐行も止まりもしない。その点リノ市は全く違っていった。私が道路を横断しようと歩道に立ったら、約5メートル先から車は徐行して止まってくれる。そして運転手は先に行くようにと手を振ってくれる。私は、昔よく見た「バックツーザフィーチャー」の映画を思いだした。アメリカから帰ってきて、まるで50年前の時代にあと戻りしてしまったような気になった。今日もマナグア市での交通事故を見た。警察官とドライバー同士が話している。いつものことだけど。



6月10日(土)、フィガルパ JICA ボランティア祭りに参加した。このイベントは JICA 青年海外協力隊が企画し、各地方の街で日本文化を紹介するイベントだ。今回も各隊員のニカラグアでの活動や浴衣の着付け、生け花などが紹介された。他にも野球隊員によるボーリングゲーム、UCA 大学の日本語学生による沖縄の踊りが披露された。当道場からは、私を含めて4名が合気道演武として、太刀・杖の形、組太刀・杖を披露した。また、地元の子供たちが、民族衣装をつけてダンスを披露した。フィガルパ市は、私の住んでいるマナグア市からバスで約3時間東北に行った所にある小さな街だ。この街も他の街と同じように中心部には教会がありその前には公園。そして、教会を中心に露店が並び、商店街が東西に広がっている。しばらくマナグア市内から出たことがなかったが、このフィガルパ市にきてニカラグアの街の構造を改めて思い出し、スペイン人による植民地の影響を全土に受けていることに驚いた。そして、その夜懇親会に参加して、地元自慢のステーキを隊員たちと食べた。味付けが日本の味に似ていて、肉も柔らかく美味しかった。マナグアにある有名なステーキハウスより格段と上手かった。



6月11日(日)、私は、マナグアのメトロポリタン救急病院に運ばれた。実は、昨夜の懇親会で飲み過ぎたのかもしれない。深夜1時ごろから陰茎部が急に痛く足り、また尿が出なくなってしまった。夜が明けるまで、ベッドの上で痛みを耐えながら、また便所に行ったり来たりしていた。午前8時ごろになって、下腹部がパンパンに腫れて上体を曲げたりすると腹に力が入りさらに痛くなった。JICA健康管理員のOさんに電話した。そしたら、昨夜一泊したJICA所長Tさんも今からマナグアに公用車で帰るとのことだった。そして、Oさんに救急病院に行くように勧められた。バスに乗らずに帰れると思うとホットした。今思うと、もしバスを利用して、途中からタクシーで帰宅していたら、キッと途中で気絶していたかもしれない。



Tさんの公用車に便乗できたことは非常に助かったのだが、乗車しても相変わらず下腹部は痛い。尿を出したくてもでない。まだなぜ痛いのか分からない。病院に着くまで何回か車から下ろしてもらって、路肩の草むらに入って、小便を試みたが尿はでない。ズボンを下してしゃがんでいたら、その土地の地主らしい二人組が山刀を片手にやってきた。この敷地から出ていけ、と言っているようだった。私にはスペイン語が分からない。私は痛くて、痛くてたまらなくて体を屈めている状態なのに、何て非情な奴だと思った。二人は敷地にある壊れかけた門を閉めた。また公用車に乗った。約2時間半かかって、漸く病院についた。看護師は私に寝台に仰向けになって寝ろ、と言ってるようだ。私は、下腹部が痛くてうつむせにしかねれないと言ったが、英語が通じない。しばらくして女医が来た。看護師と女医は長い間喋っている。早く治療してくれ、と英語で叫んだ、でも英語の分かる人がいない。女医は、私の下腹部を抑えた。私は大声で痛い痛いと言った。落ち着け落ち着けとスペイン語で女医は言う。そして、私のペニスに管が通された。さらに、痛くなった。同時に、下腹部の張は引いた。尿が管を通して排出されたのだ。大きな溜息が出た。今度は下腹部からペニスの先端が痛くてたまらない。痛み止めの薬を口に流し込まれた。翌日専門医の診断を受けることになり予約して、自宅に戻った。しかし、その夜もペニスの先端が痛くて眠れなかった。尿袋をつけたまま、家のなかをのたうち回った。

